

消防用設備の **落とし穴** について - 西日本防災システム

訓練

消防訓練の落とし穴

訓練に関して



訓練

色々な防火対象物で消防訓練が行なわれています。その規模により内容は様々ですが、**御注意**頂きたいことがあります。対象物の用途、規模により、随分違いはありますが、消防訓練の基本的流れは

- 1 自動火災報知設備鳴動 非常放送の音声警報が送出される防火対象物もあります
- 2 現場に向かい 火災の確認 非常放送による全館鳴動
館内に火災発生を伝達 避難・誘導
- 3 消火器による初期消火 スプリンクラー消火設備設置対象物では、当該居室のドアを閉め、避難
初期消火失敗 屋内消火栓設置の防火対象物では、内栓による消火活動実施。
- 4 消防署に火災通報 火災通報装置設置対象物では、逆信を取って現状説明
- 5 安全な場所で避難の確認 収容人員の多い防火対象物では特に注意が必要



こんな流れで進んで行くのですが.....



この流れで特に御注意頂きたいのは4 火災通報 です。以前ある地方の老建施設での訓練で、火災通報時に消防側が訓練と認識できず、**出動!!!**

という事件がありました。現在各管轄消防署では、老人の方が多い施設には最速の現着（現場到着）と最小の被害を目指していますので、この事件発生時には

消防ヘリ 1機 消防車 8台 救助工作車 1台 はしご車 2台 指揮車 までのフルラインナップで出動しました。ですが現場では **???訓練!!!**

POINT!

- **火災通報装置での自動通報**： 逆信を取って必ず **「訓練火災です」** を宣言してください。 **事前連絡も忘れずに！**
- **電話回線での通報**： 第一声 **「訓練火災です」** を宣言してください **事前連絡も忘れずに！**

POINT!

実火災で火災通報装置を起動させた場合、特に伝えたい事項が無い場合や、消火、避難行動で慌しい場合、**必ず逆信を取る必要はありません。** あなたは在館者の安全確保に全力を尽くしてください。もう **あなたののもとに 消防車は出動しています！**

